

令和3年8月25日

中野区長 酒井直人殿

公明党中野総支部 高倉 良生

平山 英明

木村 隆

久保 南

甲田 隆

白井 秀史

小林 善一

日野 崇



区内での「コロナ治療ステーション(酸素投与、抗体カクテル療法)」 の開設についての緊急要望

今や最大級の災害である現下の新型コロナ対応について、中野区保健所の陽性患者、濃厚接触者への伝達、疫学調査等、発生時における初動機能はひっ迫しており、重症化した在宅療養患者も既に出ている。このような状況下の中で区民の尊い命を守るため在宅療養患者に対し酸素投与や抗体カクテル療法の実施(静脈内投与)が求められている。

これらについては、コロナ医療の最前線で現実を目の当たりにし、区民の命を守るために奮闘する区内医療機関、医師からも実施を望み協力も含めた声が上がっている。公明党中野総支部は、コロナに苦しむ区民の命と健康を守るために、以下の実施について強く要望する。

1. 国や都と連携し、区内に在宅療養者の管制機能を持つセンターと、酸素投与や抗体カクテル療法の実施などが可能となる拠点施設を即時開設に向けた検討を行うこと。
2. 保健所の業務量は多く、職員の疲弊も明らかである。『コロナ治療ステーション』の開設にあたり、人員の配置や新たな体制の構築により、更なる保健所の業務負担増とならないよう開設すること。
3. 拠点施設となる『コロナ治療ステーション』では、酸素投与と診断初期に重症化予防を目的とした可及的な抗体カクテル療法の実施を想定し、入院調整など保健所の業務軽減を図ること。
4. 開設施設は、既存の医療機関の拡充など方法は限定せず、多くの区民が利用可能となるよう柔軟に対応すること。
5. コロナ治療ステーション開設後は、入院調整をより順調に行うため、新たに『入院待機ステーション』を開設すること。また、コロナ患者の治療が終わった区内の病院の病床を効率的に利用するため、コロナ患者の積極的な退院支援や地域での受け入れを加速する必要がある、医師会所属の医師を中心とした、区内医療体制を俯瞰的に管理調整する『在宅療養者管制センター』の設立を早急に行うこと。